

検索

書評・コラムを読む / コラム別に読む / たいせつな本

### たいせつな本

(たいせつな本) 佐藤優: 上 宇野弘蔵『経済原論』

[文] 佐藤優 [掲載] 2007年01月14日

ツイート 1

おすすめ 0

g+ 0

my classics

2人のカール結んだ、純粋資本主義の視座

岩波全書版の宇野弘蔵著『経済原論』には人生の二度の重要な局面で助けられた。一回目は、同志社大学神学部二回生のときである。キリスト教の洗礼は受けたが、マルクスから離れる気にはどうしてもなれなかった。人間が人間を抑圧したり搾取する資本主義社会よりも階級対立を廃絶し、平等を担保した社会主義社会の方がイエスキリストの教えに近いと感じていたからだ。椎名麟三、ベルジャーエフなどマルクス主義からキリスト教に転向した作家の著作を次々読んだが、納得できる答えは見つからなかった。この問題に簡単に結論はでないと考えた私はとりあえずマルクス経済学とキリスト教神学を並行して勉強することにした。その過程でカール・バルトの『教会教義学』とカール・マルクスの『資本論』に惹(ひ)きつけられた。二人のカールが展開する弁証法が実に見事だったからだ。『資本論』の参考書として宇野弘蔵の著作もひもといっていたが、労働力商品化を軸に資本主義社会が自己完結しているとする宇野の言説が私の魂をとらえた。『経済原論』の結論部で宇野は「社会主義の必然性は、社会主義運動の実践自身にあるのであって、資本主義、資本主義社会の運動法則を解明する経済学が直接に規定しうるのではない」と強調するが、これによって私は『資本論』の論理に立ちながら、キリスト教徒であることに矛盾を感じなくなった。

外交官になり、インテリジェンス(特殊情報)業務に従事するようになった後も二人のカールと宇野弘蔵から教わった弁証法は私にとって重要な知的武器だった。二回目はソ連崩壊後のことだ。ロシアで展開された市場経済化を宇野原理論という純粋な資本主義の視座から見ると情勢を的確に分析、評価することができた。エリツィン政権初期のブレインでソ連崩壊のシナリオを描いたブルブリスに宇野経済学について説明したら、メモにすることを求められた。その後、ブルブリスは新自由主義に批判的になる、そこには私のロシア語メモの影響も少しあったと思っている。

(外務事務官＝起訴休職中)

\*

岩波書店・2100円。初版は64年。科学とイデオロギーを峻別(しゅんべつ)した著者の資本主義分析の基礎をなす。

この記事に関する関連書籍



著者: 宇野 弘蔵 出版社: 岩波書店 価格: ¥ 2,376

Amazon.co.jp  
楽天ブックス  
紀伊國屋書店ウェブストア  
TSUTAYA online

新聞購読のご案内 朝日新聞 会社案内・事業紹介

**速報** ソフトバンクが大学をつくった!?

今なら入学金0円  
「通学不要で大卒資格が  
取れる。」と話題に。  
タブレット端末無料配布

サイバー大学 Cyber University **限定特典はこちら**

企画・制作 朝日新聞社広告局 BOOKasahi.com

今日の **サンサンヤ**  
朝日新聞の小粋出版広告 詳しくはこちら

[ニュースの本棚](#)

[思い出す本 忘れない本](#)

[再読 こんな時 こんな本](#)

[売れてる本](#)

[著者に会いたい](#)

[ビジネス](#)

[コミック](#)

[エンタメ](#)

[視線](#)

[話題の新作\(週刊朝日\)](#)

[ベストセラー解説\(週刊朝日\)](#)

[文庫・新書イチオシ](#)

[CROSS OVER](#)

[新書の小径\(週刊朝日\)](#)